

林原美術館のこの半年

財団法人林原美術館館長 熊倉功夫

いました。急遽、有識者百名以上の方の署名を集め、管財人と裁判所に、所有権はどこにあっても、美術館で一体として保存展示してきましたものであるので、散逸させないよう善処されたい旨の嘆願書を提出しました。

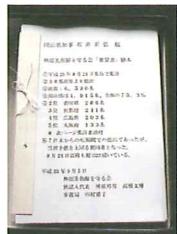
今年二月、突然、株式会社林原が会社更生手続開始の申立を行ない、その全面支援で運営しています当美術館も、大混乱の中に放り込まれました。その後、皆様友の会の暖かいご支持のもとに、ようやく目途がついてまいりましたので、その間のご報告を簡単に申しあげたく存じます。

林原美術館の蔵品が、岡山県下はもちろん、日本の美術館を見渡しても、東洋美術のコレクションとしてすぐれたものであることは周知の通りです。中でも池田家旧蔵の大名道具と関連する資料、ならびに備前刀のコレクションは他にない独自のものですし、それ以外にも故林原一郎氏が収集した陶磁器や中国あるいは近代日本の絵画など、優品が少なくありません。ところが、その中には美術館に所有が移ってない個人預り分があつて、これが債権者の手で処分される可能性が出てま

ていますので、われわれも大きな希望をもつてさらに一步前に進みたいと思います。

その後、糾余曲折はありましたが、この七月末に、ほぼスポーツサーが決定するという段階に至りました。ここで友の会の方より、市民の声を署名にして結集しては、というお申出があり、神原邦男先生、高橋文博先生、市村祐子先生が世話人代表と事務局をお引受け下さいました。署名は、皆様の熱心なご勧誘によりわずか半月のうちに六千五百余名というたくさんの方々よりいただき、各方面に提出した次第です。

株式会社林原の新しいスポンサーに決定した長瀬産業株式会社の方からもできる限りのこと



企画展

企画展「戦国の雄 池田家」

平成23年10月30日(日)～12月25日(日)

本展では、備前池田家誕生に至る戦国時代の池田恒興や輝政、利隆といった池田家の武将の書状や武具などの所用の品々を展示し、その活躍を振り返ります。

岡山藩主池田家の礎は、戦国時

代に織田信長（一五三四～一五八二）の乳母になつた養徳院（一五五五～一六〇八）と、その息子で信長の乳兄弟として活躍した戦国武

将の池田恒興（一五三六～一五八四）によって築かれました。天正十年（一五八二）に本能寺の変で信長が倒れた後は、恒興は豊臣秀吉とともに山崎合戦で明智光秀を破り、織田家の重臣となっています。しかし天正十二年（一五八四）に秀吉と徳川家康が戦つた小牧・長久手の戦いで、恒興は秀吉方につくも



池田利隆画像

当館所蔵の池田輝政・利隆画像（雲居希膺賛 狩野尚信画）と池田恒興画像（鳥取県立博物館所蔵）は、本来は一組だったものと考えられ、本展で約三百五十年ぶりに三幅が一堂に揃います。これらの資料を通じて、戦国時代の池田家の雄姿に思いをはせていただければと思います。

志半ばで戦死してしまいます。秀吉は息子を失つた養徳院に何度も書状を送つて慰めており、秀吉の計らいにより、恒興の次男の輝政が家督を継ぎました。輝政は徳川家康の娘婿でもあつたため、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の合戦では徳川方につき武功をあげ、姫路城主となり近世の池田家繁栄の基盤を築きました。

古来日本人の最も身近にあつた工芸品の一つに漆器があげられます。日本における漆の使用は縄文時代前期まで遡ることができます。特に東北地方は漆の栽培に適しています。漆木は落葉樹で、果実からは蝋を、樹皮から漆汁を採取しました。漆汁がしたたる様子が語源となり、「うるおう」とも、「うるわし」の意を含んだ「うるし」とも呼ばれるようになりました。漆は時に強力な接着剤として、時に塗布材として様々な場面で多用されました。特に調度類や家具類に塗られた漆はしつとりとした光沢を放つ塗肌の美しさに魅力があり、これは他の塗料

では得ることのできない、東洋独特の美の世界を表現します。平安時代には漆を用いて金銀の細かい粉を蒔きつけて文様をあらわす蒔絵が盛んになり、江戸時代にその技術は最高期を迎えます。



月浪千鳥蒔絵料紙箱

企画展「うるわしきうるしの美」

平成24年1月7日(土)～3月4日(日)

このように日本文化の中で実用や装飾品として愛用された漆ですが、現代ではプラスチック製品などに取って代わられ、我々が身近に接する機会がほとんどなくなってしまいました。本展覧会では林原美術館所蔵の漆器の名品を御覧いただき、改めてその魅力の一端に触れていただきたいと思います。

では得ることのできない、東洋独特の美の世界を表現します。平安時代には漆を用いて金銀の細かい粉を蒔きつけて文様をあらわす蒔絵が盛んになり、江戸時代にその技術は最高期を迎えます。

特別展

特別展「洛中洛外図屏風に描かれた世界」

平成24年3月17日(土)～4月15日(日)

京都の景観を描いた洛中洛外図は、桃山時代から江戸時代前期を中心に制作され、当時の都市の景観や風俗を今に伝えています。中でも若き日の狩野永徳が描き、織田信長が上杉謙信に贈った国宝の上杉本(米沢市上杉博物館)は、その細密な描写や由緒から洛中洛外図の白眉と言えるでしょう。これらの中にも、現存する洛中洛外図のなかで最も古体をあらわす舟木本(東京国立博物館)や下書きながらもその精緻な描写でしられる東博模本(同)、江戸時代初期の景観を描き、徳川和子の入内行列をはじめとして三千人をこす人物が描写された当館所蔵の林原本や、林原本の写しと考えられる岐阜市歴史博物館本など、日本を代表する洛中洛外図を一堂に集め、描かれた京の雅をご覧いただきます。



国宝 洛中洛外図屏風 右隻(部分) 米沢市上杉博物館

本展は、群馬県立歴史博物館・米沢市上杉博物館と当館の三館が共同で企画したもので、当館が西日本唯一の会場になっています。また立正大学のプロジェクトチームにより制作された上杉本・林原本などの洛中洛外図屏風の高精細デジタル画像を御覧いただくことで、各屏風のより細部を確認することができます。京都の町に暮らす人々の活気ある様子や、祇園祭の山鉾など、洛中洛外図に描かれた世界を存分にお楽しみください。

【「京都茶室巡りの旅」に参加して

この度の茶室巡りは天候にこそ恵まれなかつたが大変な幸運に出会った旅であった。特別なお許しをもつて国宝待庵に一人、一・二分という短い時ではあつたが、内に座すという夢のような体験をすることができたのであつた。その空間は外から拝見するのとは全く違つていた。幽玄の文字通りただならぬ氣が漂つていた。その空間は彼方へと永遠に拡大しているようにも

【「秋のお月見会と音楽鑑賞」に参加して

今年のお月見会はソプラノ歌手・豊田喜代美さん、ギタリスト莊村清志さんによるコンサートに始まり、「秋の風物」にまつわる含蓄あるお話、庭園でのお茶をいただきながらの月見会と大変充実した時間を過ごすことができました。

特にコンサートでは館内に響き渡る力強く伸びるひとときでした。

小出博子
宇野美里

びやかな歌声、美しいギターの旋律に包まれ、大変心地よい演奏を堪能することができました。

熊倉館長の講演で重陽の節句は災いを祓う日というお話を拝聴しましたが、庭園でのお月見にはむら雲もなく晴れ渡った夜空に輝く月も臨め、まさに日々の喧騒から離れ、心あらわ

本年度も様々なイベントを企画し、皆様にご参加いただいています。上半期のイベントに参加いただきました皆様から、様々な感想をご寄稿いただきました。これからも楽しい企画を計画中です。

「桜見の会」に参加して

中條晴之

毎年、楽しみにお伺いさせて頂く林原美術館

いております。

の「桜見の会」。野立てのお茶席や見事な桜も然ることながら、熊倉館長のご講話がとても素晴らしい、茶の湯のものの見方やちょっとした逸話のまとめ方など、とても及ばないと知りつつも、先生のお話の展開やご亭主振りをなんとか盗めないだろかと密かに思いながら、いつも聞かせて頂

観させて頂きました。一番印象に残っているのが世界地図の屏風。意外に正確で、日本地図の部分は各藩の名前が入っていました。

今後とも、美しい桜の咲く美術館にお伺いするのを楽しみにいたしております。

イベントに参加しての感想

今年の秋のお月見会はソプラノ歌手・豊田喜代美さん、ギタリスト莊村清志さんによるコンサートに始まり、「秋の風物」にまつわる含蓄あるお話、庭園でのお茶をいただきながらの月見会と大変充実した時間を過ごすことができました。

特にコンサートでは館内に響き渡る力強く伸びるひとときでした。

びやかな歌声、美しいギターの旋律に包まれ、大変心地よい演奏を堪能することができました。

熊倉館長の講演で重陽の節句は災いを祓う日というお話を拝聴しましたが、庭園でのお月見にはむら雲もなく晴れ渡った夜空に輝く月も臨め、まさに日々の喧騒から離れ、心あらわ

今年度後半のイベント

今秋以降も、講演会・お茶会・ワークショップと多くのイベントを開催いたします。皆様の参加をお待ちしております。

文化ゾーンを巡る旅

③美術館巡り

今年は尾張徳川家に伝来する「大名道具」1万数千件を所蔵する徳川美術館と、尾張の国が生んだ大茶匠であり、信長の実弟である織田有楽斎が建てた国宝茶室「如庵」を巡ります。伝統文化を感じ、歴史ある名古屋を堪能していただきたいと思います。

日 時 平成23年10月29日(土)

定 員 45名(要予約)

参加費 13,000円(名古屋駅までの交通費は各自負担となります。)

秋のお茶会

③「林原美術館竹明庵茶会」

人気イベントの一つである林原美術館竹明庵茶会を、今年も開催いたします。熊倉館長のしつらいによるなごやかなお茶席で、一期一会の楽しいひと時をお過ごしください。

日 時 平成23年11月19日(土)・20日(日)

定 員 各80名(要予約)

参加費 友の会会員1,500円 一般1,800円

美術館講座

③林原美術館講座

日 時 平成23年12月3日(土) 13時30分～15時

講 題 「八条宮と桂離宮」

講 師 林原美術館館長 熊倉功夫

参 加 費 80名(要予約)

会 場 岡山県立図書館 友の会会員1,000円 一般1,200円

特別講演会

③特別展「洛中洛外図屏風に描かれた世界」展 記念講演

日 時 平成24年3月17日(土)

13時30分～15時

演 題 「洛中洛外図屏風を読み解く」

講 師 黒田日出男氏

会 場 岡山県立図書館 多目的ホール

参 加 費 100名(要予約)

友の会会員 1,000円

一 般 1,200円

ワークショップ

③能体験教室「能を知る」

能とは何かをわかりやすく学んだあと、実際に能衣装を着けてみると、能衣装を着てみると、能の伝統芸能を体感していただきます。体験後は、美術館や舞台の能鑑賞が今までとは違った見方でお楽しみいただけるのではないかでしょうか。

日 時 平成24年3月24日(土)

講 師 梅若猶彦氏

参 加 費 友の会会員 3,000円
一 般 3,500円

編集後記

今年は友の会の皆様を含め地域の皆様やたくさんの方々への感謝でいっぱいの上半期となりました。美術館スタッフも、展覧会やイベントが充実したものになるよう頑張つておりますので、是非おかげください!上半期のイベントの感想を掲載しております。ご寄稿くださいました皆様方ありがとうございました。(杉村・新井)



「友の会」募集のご案内

●会員の種類・年会費
個人会員 1年 3,000円(新規)
法人会員 1年 3年 7,000円(入会継続)
3年 30,000円(新規)
27,000円(入会継続)
70,000円

- 有効期限
 - 1年会員 平成23年4月1日～平成24年3月31日
 - 3年会員 平成23年4月1日～平成26年3月31日

- 会員の特典
 - ①入館料無料または割引料金
 - 【企画展】ご本人と同伴者一名様 無料

- 会員の特典
 - ②展覧会・イベント情報の送付
 - 「林原美術館NEWS」(年2回発行)の送付
 - その他イベントのお知らせの送付

- 会員の特典
 - ③イベントへのご参加は、会員割引料金でのご案内他あり

①入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。



※開催日時等が変更になる場合があります。
何卒ご了承ください。

http://www.hayashibara-museumofart.jp